

ひらくびつかん

HIRATSUKA CITY MUSEUM

VOL 7 NO 1 1982. 4. 1

平塚市博物館 TNO 72

教育普及活動の紹介 ④

陶器を作ろう



自分の心からく造り出した>ものを手にする時、人は誰も無上の喜びと感慨にふけることでしょう。

2月の2日から5日まで、「陶器を作ろう」の教室が開かれ、森田学芸員の指導で湯のみ茶碗を作りました。参加者は18名余り。。。く陶器師>の手のわざが実って、思い思いの作品が出来上がりました。以下は 参加者の感想文です。

● 寒さの厳しい日々の4日間、自分の湯のみを作りました。一魂の黒い粘土をねり、成形し、焼いて、いつも身近にある食器の出来上りです。観賞に耐えるのには程遠い出来ですが、4日間という日、黒い粘土に向っていた時間は、生活の雑念からはなれられた貴重な時間だったと思います。そして、出来上がった二つの湯のみと、チョッピリ高いお茶とで、楽しいひとときを過しました。

今後の希望は、時間が許されれば出来上りまで自分のそばで仕上げたいと思いました。

いつも誠実に、厳しく御指導下さる事を、ありがたく思、感謝しております。

(主婦 宇都山美代子)

● 焼き物をやってみたいと思い始めたのは、かなり以前からです。その頃は、近くで、主婦業の合間に安い費用で勉強できるとは、思ってもみませんでした。大和市より転居して、思いがけず、チャンスに恵まれ、昨年と今年、続けて「陶器をつくろう」に参加しました。

陶芸は誰でも興味を持ったらすぐ始められるものではありません。粘土や釉薬などの購入、窯を個人で持つ等は困難です。「やってみたいな」と思っていらっしゃる沢山の方々に体験のチャンスを与えていただき、年に一度の教室を待つだけでなく、土や釉薬の購入、窯の利用等、博物館の科学教室を開設していただけたらと思います。

普段、何げなく使っている器を自分の手で作る難しさ、面白さがわかりかけるところ、4日間の日程は終わりました。焼き上がりがどんなになるかとても楽しみですが、素焼や釉掛けなども是非体験したいものです。
(主婦 田中節子)



4月の行事

1	木	市制記念日(休館日)
2	金	
3	土	プラネタリウム
4	日	プラネタリウム
5	月	(休館日)
6	火	
7	水	
8	木	
9	金	
10	土	プラネタリウム 土曜観察会
11	日	
12	月	(休館日)
13	火	
14	水	
15	木	
16	金	
17	土	プラネタリウム
18	日	プラネタリウム 地層観察会「地図の見方」
19	月	(休館日)
20	火	
21	水	
22	木	
23	金	
24	土	プラネタリウム 土曜観察会
25	日	
26	月	(休館日)
27	火	
28	水	
29	木	天皇誕生日(休館日)
30	金	(月未休館日)

- ◇特別展示室では、「市民のアトリエ・デッサン教室作品展」を行っています。20日まで。
- ◇寄贈品コーナーでは、「相模湾の魚」(西山コレクション)展を行っています。30日まで。
- ◇プラネタリウムは、「惑星直列」をテーマに投影します。

5月の行事
あなたも参加してみませんか

●土曜観察会

毎月第2・4土曜日の午後2時~5時

高麗山・湘南平の動植物を観察記録しています。参加希望者は、60円切手同封で、封書で申し込んでください。参加案内をお送りします。なお参加案内は、博物館受付でも配布しています。

●みんなで調べよう「平塚のツバメ」

博物館では、平塚市内のツバメの分布調査を行っていますが、協力してくださる方を探しています。ツバメの巣を見つけ、地図上に記録する調査で予備知識や体験は必要ありませんが、小学校4年以下の場合は、大人が同伴してくださる方に限ります。

打ち合わせ 5月2日(日) 午後1時~3時
博物館科学教室

まとめ 6月13日(日) 午後1時~4時
(調査)上記の期間内に各自都合のよい時に、1~2日間行う。

●星を見る会「惑星を見よう」

集合した惑星を観察します。

日時 5月8日(土) 18時~20時

集合場所 博物館 科学教室

参加は自由ですので、当日お集まりください。
雨天曇天時は科学教室内で会を行います。

●体験学習64「草木で遊ぼう」

古くから伝わっている草や木を使った遊びを、山野を歩きながら体験してみます。

日時 5月12日(水)午前9時半~11時半

場所 金目周辺

20人

申し込み 5月2日までに往復ハガキで。

●自然観察会「新緑の箱根をたずねよう」

箱根の地質、初夏の野鳥などを観察します。

日時 5月16日(日) 午前8時~午後5時

コース 箱根大湧谷・神山付近

申し込み 4月30日までに往復ハガキで。希望者多数の場合は、抽選で30名。小学校4年生以下は保護者同伴のこと。



発掘された平塚

豊田本郷遺跡について



|現場からの経過報告|

昨年10月から、豊田本郷バス停の東側で発掘調査を行なっています。この発掘は平塚海岸・伊勢原線新設に伴なう事前調査で、豊田本郷遺跡発掘調査団（団長 日野一郎）が発掘にあたっています。まだ調査途中段階ではありますが、ここに経過報告をいたします。

遺跡は標高8~3.4mに立地し、畠地として利用されていましたが、土層堆積状態を調べると北側と南側は自然堤防、中央部は埋没砂丘が見られます。遺構はこの両方の地形に存在し、特に溝・井戸は自然堤防に多く見られるのが特徴です。現在まで検出された遺構は、9種159基を数え、調査途中段階でありながら

多くの成果を上げています。

2・3の遺構について触れると、住居址は不整形をし、長軸2~4mと一定せず、壁の立ち上がりはゆるやかで、カマド・炉址などをもたないもので、普通の竪穴と異なります。出土遺物は土師質の皿が1点出土しているだけで、時代は決定しかねますが、室町時代と考えられます。

井戸は規模・平面形・内部構造も多様で、時代も室町時代と江戸時代に分けられそうです。右の図は12号井戸から検出された木枠で、非常に良く残っていました。一辺約1.2mの方形をし、高さ約1.6mを測り、15cm角の隅柱を支える横木は3段認められ、交互に柄と柄穴が組まれており、隅柱の外側に厚さ約2cm前後の板が縦に4枚1組で2重に取り付けられています。更に、板を支えるために真竹を半載したものを横に渡し、その上にこれを止める板や竹が縦に施されています。木枠の内側、横木下段と中段の間に底板が敷かれて

おり、多分水を漉すために設けられたものと思われます。木枠内部から短刀1振、櫛1点、土師質の皿6点、陶器鉢1点が出土しており、これらの遺物から井戸の年代は室町時代と考えます。

溝も規模がまちまちで、年代も古墳時代、奈良時代、室町時代と変化に富んでいます。2号溝からは木製の椀、土師質の皿、陶器小壺・鉢、宝鏡印搭などが出土しています。溝として扱いましたが掘の可能性もあり、興味ある溝といえます。

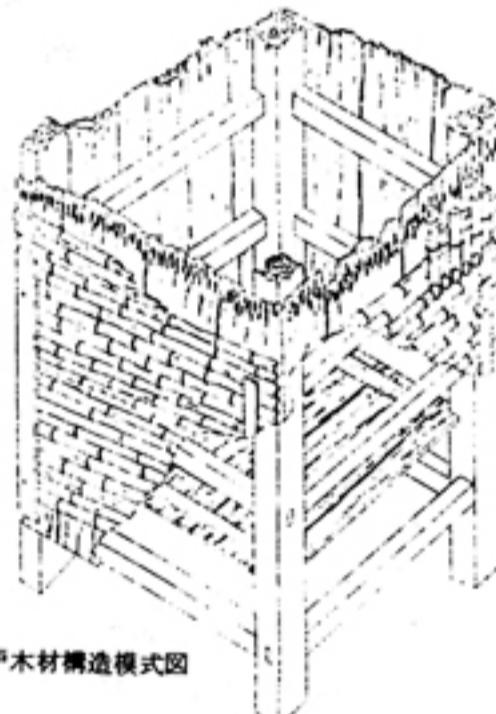
このように大変学術上貴重な資料が続々と発見されています。

今までの成果をまとめますと、中世にかけての遺構群が多数確認され、県内でも極めて希な調査であり、しかも中世の集落の実態を解明していく上で大変貴重な資料が得られたことになります。今後の調査では古代末～中世初期にかけて栄えた豊田氏に関する遺構の可能性も残されており、大

遺構の検出状況

遺構名	基數
竪穴式住居	10
井戸	18
溝	12
土	28
柱穴	66
小型方形竪穴	16
土墓	4
配石遺構	4
道路状遺構	1
	159

(3月24日現在)



12号井戸木材構造模式図

変興味の尽きない遺跡と言えます。(A)

*御質問や見学されたい方は下記に御連絡下さい。

TEL: 0463-33-2293

豊田本郷調査団 明石または村山まで

プラネタリウムの投影について

プラネタリウムの投影日は、当分の間、毎週土曜日と第1、第3の日曜日となります。

日曜日の投影については、事前に博物館にお問い合わせの上、投影の有無を確認してから、お出掛け下さい。

天文コーナー



木辺鏡來たる。

黒部丘の升水さんから、天体望遠鏡用の反射鏡をいただきました。この鏡は直径155ミリ、肉厚25ミリの青板ガラスにアルミメッキされたもので、裏をみると、1956年、木辺(きべ)氏の製作であることがわかります。

升水さんが、25年前に望遠鏡を作る際に製作を依頼されたもので、当時これだけの大きな望遠鏡を自作された人はそうはいなかつたろうと思われます。

木辺氏は、日本の天体望遠鏡の反射鏡研磨の第一人者で、お寺の住職をされるかたわら、今までに一千枚以上の反射鏡を作られています。木辺氏の手になる鏡は、「木辺鏡」と呼ばれ、すばらしい星像を結ぶことで有名です。

反射鏡はレンズに比べてその製作は数段むずかしいとされています。その理由は、レンズが球面であるのに対し、反射鏡は放物面であるからです。放物面によって反射される光は必ず一点に集まり、レンズのような光のにじみやボケが出ない、とされています。

この木辺鏡は、メッキをしなおし、望遠鏡に組み上げたうえで、星を見る会などの行事の際に皆さんにお目にかけたいと思います。

みんなのサロン

○ S君の考え方

…ぼくは半人前のれっきとした天文マニアです。最低、月に一度は来ています。しかし、よく考えてみるとプラネタリウムのほかに天文に関する資料がひじょうに少ないと思います。そこでもう少し、星・天体に関する資料をふやして下さい。

○ ぼくはあるところにいるような天キチです。 前のページのS君の意見とおなじように天文の 資料をふやして下さい。 〔返事求む〕

アホな天キチより! T.K

= 答えします =

天文資料の展示はもっとふやしたいと思います。そのためには、必要な資料を少しずつ集めていきます。たぶん、君も知っていると思うが、星は「星」集めることではなく「天文学」。なかなか实物を集めはむけたうれしいものでは、特に食や日食は、一度始めてしまうと、次は何年も待つような時間がかかる、本真で残すように考えても、長い年月をかけないと集まらない。

星座や星の資料も、同じように、写真資料で集めています。一部は、天文の展示の中にも使ってますよ。また、資料集めには、博物館によく来てくる人にも協力してもらっています。君も、星のことなどたくさんおしゃべりなさい。私もヒビキへ来てください。

3月	3月	3月	3月	3月	2月
28	24	2019	14	13	28
日	日	日	日	日	日

苦小牧から	二階展示会	茅崎市文化見学	定例打ち合わせ会	自然打合せ会	度行案内会	曜日(小川口)	星曜会	土曜観察会	定例会
のメテナ	世界文化の見学	文化資料館	例会	自然観察会	内を自治会	曜日(浜口)	を見れる会	曜日(鷹)	打ち合わせ会
の視察	市文化の見学	のため「博物館	会	案内会	に自治会	曜日(57石仏)	曜日(小川口)	曜日(鷹)	会
	文化の見学	施設		内を配布	に配布		曜日(57石仏)	曜日(鷹)	

学

芸

日

誌

二階展示会	水槽展示の整備
メンテナンス実施	

はくぶつかん

VOL. 7 161 通巻72号 印刷 平塚市総務部総務課文書係 ©3500

発行 平塚市博物館 〒254 平塚市浅間町12-41 TEL 33-5111